

本研究は、原子力開発史の分析を通じて、戦後政治史の抜本的な再検討を行うことを、最終的な目標としている。

戦後の原子力開発は、党派対立の俎上に上せられながら進められてきたのではなく、諸政治党派の黙契を前提に進められてきた。だからこれまで、殆ど政治史上のテーマとして取り上げられることがなく、また「安全神話」のベールに包まれてきた。しかしその黙契の存在こそ政治史上の大テーマであったことを今回の福島第一原発事故は我々に教えてくれた。……

12月6日(日)

午後 1:00 ~ 午後 5:00 まで

京都大学吉田キャンパス

法経済学部東館(8階建てビル)

地下1階「みずほホール」

参加無料・事前申込不要

当日の入場状況によって、立ち見のお願い又は入場制限をさせていただきます場合がございます。あらかじめご了承ください。

シンポジウム

原子力と政治

— 3.11からみえたもの —

小路田泰直 / 岡田知弘 / 住友陽文 / 土屋由香
(奈良女子大学) (京都大学) (大阪府立大学) (愛媛大学)

主催：原子力開発および原子力「安全神話」の形成と戦後政治の総合的研究
お問い合わせ：奈良女子大学文学部小路田泰直研究室 0742-20-3311